

2018 年度湘南藤沢学会 「研究助成基金」 成果報告書

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 後期博士課程1年 鎌田安里紗

(1) 活動日程・場所

日程： 2018年 9月11日～ 2018年 9月14日

会場： DoubleTree by Hilton Cape Town Upper Eastside (南アフリカ共和国)

(2) 活動の目的

南アフリカ共和国ケープタウンにて開催されるURBIO(International Network for Urban Biodiversity and Design)にて、タイトル「A Pattern Language for Initiating Biodiversity Activities: An Examination from the activities at Kitahiroshima, Japan」についての口頭発表を行う。URBIOは、都市の生物多様性の向上にむけた議論や研究成果発表のために世界中から生態学や建築に関わる研究者が集まる国際学会である。本学会は2年に一度、国連生物多様性条約策定の閣僚級会議の前に開催されており、本学会に持ち込まれた研究成果が宣言文としてまとめられて、施作に組み込まれる。そうした場で本研究の成果を発表し、フィードバックを得ると同時に、他の研究者の発表から知見を得て、研究の発展に活かすことを目的とする。

(3) 発表内容

生物多様性の損失が進み、生態系サービスの質・量が損なわれてきているという危機感のもと、全国各地で保全および持続可能な利用のための活動が推進されている。いくつかの地域ではその活動が功を奏し、具体的な成果を上げている一方で、活動が問題に陥り、行き詰まっている地域も多い。広島県北広島町では、NPOが核となって、林家、商店、ホテル、学校を結びつけ、地域資源である木材の薪利用を促進し、地域通貨を用いて流通させることで地域経済に貢献し、森林の利用を図ることで生態系の再生を図るという取り組みが進められている。日本では優良事例として知られるようになったこの仕組みが、どのようにして構築されたのか、どのような仕掛けがなされたのか、キーパーソンからのヒアリングにより、特に、人（組織）と人（組織）を結びつけ、活動へと高めてきたプロセスを浮かび上がらせる。

生物多様性保全における取り組みは、地域ごとの状況によって求められる解決策が大きく異なる。そのため、成功した地域での解決策を、状況が異なる地域にそのまま適応しても上手くいかない、という問題が起こりがちである。また、成功事例として取り上げられる地域には、必ず活動を推進した中心人物が存在する。その地域での成功は、その人物のセンスやキャラクターによってもたらされたとみなされ、「自分たちの地域には〇〇さんのような人がいないからできない」という諦めを生んでしまうこともある。本研究で用いている方法論であるパターン・ランゲージは、上手くいく方法の本質的なパターンを共有する事ができるので、成功の属人性を薄め、各々の地域が自らの状況に即して成功の秘訣を再現することを可能とする。また、それぞれのパターンに「名前」(name) がつけられていることで、パターンが共通言語となって、複数の地域や、異なるセクターの人々がともに未来を描いたり、アドバイスをし合ったり、質問をし合ったり、教育を行うことも可能とする。

(4) 活動の成果

本学会での発表を通して、2点の成果を得ることができた。まず、建築デザインの分野で生まれたパターン・ランゲージの方法論を生物多様性保全活動の推進に応用したことが学会参加者にとっても新鮮であり、ポジティブな反応を得ることができた。発表後、関心を持った他国の研究者と情報交換をすることに繋がった。

また、生物多様性の損失に係る問題は、その具体的な内容は違えど、世界共通の課題である。本研究では、日本におけるモデルを対象としているが、それが他国でも活かすうる内容であるとのフィードバックを頂いたため、今後調査地の選定の際の基準を国外にも広げて考えることが可能となった。



URBIO(International Network for Urban Biodiversity and Design)での口頭発表の様子

(5) 今後の発展

本学会での発表を通して得られたフィードバック、また、他国の研究者の発表から得られた知見をもとに、研究のブラッシュアップを行なっていく。具体的には、新たに2,3地域を調査地に加え、ヒアリング調査を行なった上でパターン・ランゲージを加筆していく。その際、本学会で生まれたネットワークを活かして、複数の研究者からフィードバックをもらいながら研究を進めていくことで、より質の高い成果を生み出すことを目指す。

(6) 謝辞

本学会参加にあたり、資金援助をしてくださった湘南藤沢学会に厚く御礼申し上げます。

以上